

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100048		
法人名	社会福祉法人 芽豆羅の里		
事業所名	グループホームめずらハウス		
所在地	879-0316 宇佐市下時枝491-1		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、入居者が主役という意識を常に持ち、黒子に徹し、日常生活において入居者の自立を支えていくことを柱にし、レクリエーションや季節に応じた地域行事等に取り組んでおり、個々の生活リズムに合わせ、生活していただけるよう配慮している。また、職員の祖父母と同じぐらいの年齢の方が多く、寄り添うことお世話をさせていただきたいという気持ちで日々向き合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・幹線道路から少し外れた住宅地の道沿いに建設されており、人や車の往来があり、近所の人との交流がある。
 ・利用者の思いに添った支援ができるよう、ケアプランも具体的で、能力を活かした生活支援となっている。
 ・建物の造りや物の配置がゆったりとしており、居室や家具なども清潔に保たれている。
 ・職員同士や利用者も仲が良く、和気あいあいとした雰囲気があり、職員は個人を大切にするケアに前向きに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業前に理念を確認している。職員会議の際も職員で声を出し復唱する等取り組んでいる。	月に一度の職員会議で理念の意義に触れ、実践できているかを話し合っている。職員は就業前に毎日、理念を確認するようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見・供養盆踊・子供会との花火大会等において交流している。23年度からは、下時枝自治区の区民となった。	自治会に加入し、事業所として認知症予防教室を開いたり、地域の行事や清掃活動に積極的に参加している。また、幼稚園児の訪問や、近所の人たちが立ち寄ってくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	めずらグループとしての地域向け会報内でグループホームについて発信している。また、認知症予防教室等に取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において取り上げられた意見を検討し職員会議において報告・改善・実践に取り組んでいる。	運営推進会議は2カ月に一回、定期的に開かれており、自治会長、老人会からの意見や提案などもある。災害対策などを議題にあげ、避難訓練など具体的な取り組みを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3	認知症の啓発活動として、市の担当者と協働して、認知症予防教室の開催などの取り組みを行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアル等を使用し、人権の尊重・尊厳を守れるよう拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行っていない。	拘束の弊害について管理者は職員によく話をしており、拘束をしない方法についての研修も行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の身体的・心理的・性的・経済的等について研修し早期発見や事前防止できるように取り組んでいる。		

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人に関しての自己決定権の尊重・ノーマライゼーション・残存能力の活用等について研修を行い支援できるよう体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族や入居者に対して、理解・納得をできるように説明を了解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者・家族から意見をいただき、より良い運営を図れるよう努めている。	利用者との話の中から思いをくみ取り、希望に沿ったケアを心がけている。また、面会や運営推進会議において家族の意見を聞き、話しやすい関係を作ることに配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やマンツーマンでの面接の場を設け、より良い方向に運営できるよう取り組んでいる。	職員会議のほかに、管理者との面談の機会を設け、運営についての職員の意見や提案を聞いている。改善に結びついた意見も多い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が十分な能力を発揮できるよう個々の情報を把握し働きやすい職場作り環境を整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がより高い知識・技術の確保の為、法人内外の研修の場を設け、一人一人が研鑽できる場を確保している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム県北ブロックの事業所の一つとして会議や交換実習を实践し、サービスの質が向上していくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人が本人の思いに時間をかけ傾聴し、寄り添う姿勢での人間関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約段階で、必ず家族の要望を伺うようにしている。さらに、本人の様子を小まめに報告する等して安心感を与えられるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が安心できるよう配慮している。支援の開始時期やサービス内容を見逃さぬよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間で配膳・野菜作り等、自分のできることを生かし仲間意識を持って共に暮らせるよう配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を参考にし、家族だからこそできることを大切にすると共に、職員も家族の一員であるという意識を持ち接するよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が、気軽に立ち寄りやすいオープンな環境作りを心がけている。	近所の人や立ち寄りやすい環境を整えようと玄関周りを工夫しており、馴染みの人や友人の訪問を歓迎している。散歩や買物などで挨拶や声かけなどを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に食卓を囲む、個々に声を掛けあう、お互いを気づかう等の環境において支えあいの生活が出来るよう支援している。		

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者の家族からの問い合わせに対して、相談・支援を丁寧に対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の趣味・特技を把握しながら希望に添った暮らしが出来るよう配慮している。	その人の暮らし方の希望や意向を職員で共有するため、フェイスシートから生活歴などを確認し、その人のケアに活かすためのデータを蓄積している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入所時において本人家族より情報収集を行い職員にその情報を伝えている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに担当を決めているが、それぞれ情報を着共有し、入居者の状態把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を反映させる為、その都度話し合いなどで介護計画を作成してより良い支援を出来るよう努めている。	3か月ごとにプランを作成し、毎月全職員でモニタリングを行って見直しを検討している。プランも具体的で、実現しやすい内容が盛り込まれている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の目標を設定し、生活記録用紙にて記載内容をその都度確認、職員間で意識づけしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、要望に対し柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある包括支援センター等と連携を図りながら地域に浸透できるよう励んでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に契約時、同意を得たかかりつけ医と連絡を密に取りながら連携を図っている。	契約時に、希望するかかりつけ医について話し合い、同意を得た医師と連携を取りながら受診の支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員は常に連絡、相談を行い、必要時に適切な医療・看護が受けられる体制を作っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にはその状態を確認する為、訪問し情報収集に努め病院との連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの要望などを踏まえ対応している。場合により医療チームと協力し、支援している。	契約時に重度化した場合を話し合い、グループホームとしてできることを家族に説明している。要望があり、医療的処置が少なければ看取りの準備もある。	口頭での説明にとどまっているので、書面を作り、手渡せるようにすることが望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の研修では救命救急士の指導のもと実技訓練を年に1～2度実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月定期的に防災訓練を実施している。また、運営推進会議において、協力体制を協議している。	災害対策は運営推進会議でもよく話し合われており、誘導や避難経路、連絡先などもわかりやすく整備されている。地域への協力依頼や毎月の訓練、備蓄なども十分である。	

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を否定せず真摯な態度で接するよう心がけている。	トイレ誘導や声かけなど、人格を尊重した対応を行っている。時に激しい言動をする方にも、優しく接する姿が見られる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや支援を表しやすい雰囲気作りに努め、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的に思いのままの行動(生活)が継続できるよう過ごしやすい時間や生活しやすい環境を整えている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいその人がその人らしい身だしなみや装いに出来るよう場面に応じて配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり拭き、食事の取次ぎ、テーブル拭き、食器片付けなど個々の力を活かしている。	楽しい食事になるよう、職員とともに食卓を囲み、できる人には配膳や片付けなどを手伝ってもらっている。日曜日は好みを聞いて、グループホームの厨房で作るため、利用者の好きなメニューが並んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、本人の必要摂取量を把握し、バランスよい食事療法で保てるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方については、声かけを促し施行している。自力でケアができない入居者に対しては、一緒に行っている。		

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間と本人にあった排泄パターンを常に検討している。	排泄パターン表を利用し、時間帯を考えながらその人にあった上手なトイレ誘導を行っている。利用者の様子、表情にも注意し、排泄の自立を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージなどを使用して便秘傾向の改善を目指している。また、必要時に応じて、服薬で排便コントロールする場合もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている方もいる。入浴拒否の場合は、時間職員などを変更し、対応している。	毎日入浴でき、希望によって、ある程度は入浴時間も選ぶことができる。全員が週に4、5回は入浴し、できない人には清拭したり、足浴、手浴なども行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間ともに休息はできており、眠れないと訴える入居者はさほどいない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修の中で入居者の服薬リストの確認などを実施し、浸透するように努力している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔好きであった趣味や野菜作りなどを実施し、誕生日会は家族を交えて行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の住民との花火や、盆踊りなどに参加を促し定期的に散歩を実施している。	気候のいい時は毎日、買い物や散歩、畑やテラスの草花の世話など、何らかの形で外気浴を行っている。地域の行事への参加も多い。	

事業者名: グループホームめずらハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売の利用等で好みの物を購入し金銭のやりとりが出来るよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話のやりとりをしている。また、年始・お中元などの連絡を実施している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ち着いた空間の配慮をしており、壁面など季節に応じて変更している。	季節を感じさせる物を置いたり、レクリエーションの写真を飾って訪問した家族と一緒に楽しんだりしている。目につく場所に新聞や見やすい本などがおいてあり、家庭的な雰囲気を出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベート空間の完備・コミュニケーション空間の整備を行い安心して過ごせるよう居室作りを行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住む場所は変わるけれども、自分らしく、好きなことを気兼ねなく行え暮らせる環境を整え支援している。	個人の状態によって座りやすい椅子やテーブルを配置したり、花を飾ったりしている。トイレ、洗面台が広く、ゆっくりとできる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができることは、可能な範囲内で実施していただけている。		